



伊勢河崎まちづくり舞台 ～伊勢河崎の歴史文化の解説と展示～



＜伊勢河崎商人館模型＞
Ise Kawasaki Syouninkan model

平成11年から商人館を整備するため委員会が立ち上げられ、平成13年から平成14年に商人館の修復整備事業が進められました。また、平成13年には、商人館が国の「登録有形文化財」に登録され、文化財としての価値も認められる事になりました。そのような経緯を経て、伊勢河崎商人館模型は商人館の開館と同時に制作されました。伊勢河崎商人館模型は、商人館を中心に南は勢田川、東は川の駅までの全体が把握できるものとなっています。



＜伊勢河崎商人館母屋＞

The main building of Ise Kawasaki Syouninkan

伊勢河崎商人館母屋は商人館の中心的な施設であり、母屋には伊勢河崎を代表する商家の和室や京都の裏千家ゆかりの茶室があります。



＜河崎まちなみ館、角吾座、河崎厠＞

Kawasaki Machinamikan, Kadogozo, Kawasaki umaya

河崎まちなみ館は伊勢河崎の歴史・文化の展示、角吾座は講演会やコンサート等のイベントを行う蔵となっています。

伊勢河崎商人館模型では、勾配屋根や庇の様子についても細かく再現しています。商人館を中心とした建物の模型は木で作成し、周辺の模型の色を商人館の模型の色よりも濃くする事で商人館の模型が目立つように工夫しています。



＜伊勢河崎商人館模型解説パネル＞

The panel for explanation about Ise Kawasaki Syouninkan

伊勢河崎商人館は、複数の蔵や町屋からなり、各建物によって異なる役割を担っています。

パネルでは、様々な角度から見た伊勢河崎商人館模型の全体像や通りからの眺め、各建物の特徴や活用方法等を紹介しています。



受賞案件
「伊勢河崎・町並みと川を生かしたまちづくり」
受賞団体
特定非営利活動法人 伊勢河崎まちづくり衆



伊勢河崎は川と共に発展してきました。そこで、勢田川の「川」という文字の3つの線を伊勢河崎の特徴を表す「地道」、「建物」、「川」のそれぞれの色で表現しました。浅野研究室では、伊勢河崎商人館の開館時から伊勢河崎まちづくりについて解説するパネルを「伊勢河崎まちづくり舞台」と名付けています。

本活動は三重大学地域貢献事業支援助成によって平成28年度から平成30年度にかけて行いました。

制作年度	活動内容	制作者(三重大学大学院工学研究科建築学専攻浅野研究室)
平成14年度	伊勢河崎まちづくり解説パネル	佐藤 徳英 / 中田 千勇
平成16年度	伊勢河崎商人館模型	Hoyos Bucheli Luis Gonzalo / 各務 明子 / 田村 悟 / 土屋 尊司 / 福田 剛史 / 堀内 勇輔 / 村上 明子 / 渡辺 亨
平成28年度	伊勢河崎町並み再現模型・再現模型解説パネル	上田 拓矢 / 高田 直紀 / 忌部 光佑 / 高野 風人 / 瀧本 颯 / 長坂 昌紀 / 粟田 悠斗 / チン ダガン
平成29年度	伊勢河崎町並みパネル	瀧本 颯 / チン ダガン / 田垣 徳幸
平成30年度	伊勢河崎町並みパンフレット	瀧本 颯 / チン ダガン / 田垣 徳幸 / 粟田 悠斗

伊勢河崎は今でも歴史的町並みを残しており、現存する歴史的町並みを活用して、まちづくりを行っているまちです。これまでの伊勢河崎における歴史と景観を守り、まちづくりを行ってきた活動を紹介するパネルや模型を制作し展示しています。



編集制作：三重大学大学院工学研究科建築学専攻浅野研究室

協力：特定非営利活動法人伊勢河崎まちづくり衆

伊勢河崎町並みパネル HISTORIC KAWASAKI TOWN PANELS

まちづくり歴史年表・昭和（戦後）～現在

CORONOLGY OF THE HISTORY OF TOWN AND COMMUNITY PLANNING



七夕豪雨による勢田川の河川改修 Setagawa River Improvement by Tanabata Rain

昭和49年7月6日から8日にかけて、台風に刺激された梅雨前線が各地に大雨を降らせ、伊勢市では勢田川が氾濫したため、床上浸水3,041戸、床下浸水10,000戸の大規模な被害が起こりました。このような災害を防止するために、勢田川右岸沿いの全ての蔵や町屋を取り壊す「勢田川河川改修計画」が発表されました。伊勢河崎のまちは周囲に巡らされた環濠等があることにより直接的な被害を免れたため、建物を取り壊す河川改修計画に反対する運動が起きました。



第二幕 現存する町並みとまちづくり活動

ACTIVITY OF TOWN AND COMMUNITY PLANNING



＜第一場 現存する伊勢河崎の町並み＞
Existing Ise Kawasaki townscapes, historic buildings, reused buildings

現存する伊勢河崎の町並みの特徴は、勢田川に平行にはしる本通りに沿って切妻屋根が続き、妻入りの町屋や蔵が並ぶ景観です。現在も伊勢河崎の町の形態や歴史の建築物が残っています。パネルでは、現在の地図を載せ、昔の面影が残る場所を示しています。また、歴史的建築物や歴史的建築物を再利用した建物を紹介しています。

＜第二場 伊勢河崎の伝統的建築意匠＞
Traditional architectural design in Ise Kawasaki

私達にリズム感を感じさせる切妻妻入りの建物からなる町並みは、伊勢河崎の町並みの大きな特徴です。このような町並みをつくり出している伝統的建築物には屋根や瓦、窓等の形状に様々な意匠の工夫があります。パネルでは、伊勢河崎の重要な各伝統的建築意匠の現在の様子や特徴を文章や写真等を用いて紹介しています。

＜第三場 伊勢河崎まちづくり衆の活動方針と活動内容＞
Activity of Ise Kawasaki Machidukurishu

伊勢河崎における先人が培ってきた歴史文化を誇りに、次の世代に継承するまちづくりを目指して活動している伊勢河崎まちづくり衆は現在、「新・蔵くら談義」や「河崎商人市」等の多くの活動を行っています。パネルでは、文章や写真等を用いて伊勢河崎まちづくり衆の活動方針や活動内容を詳しく紹介しています。

第一幕 まちづくりの歴史 HISTORY OF TOWN AND COMMUNITY PLANNING



＜第一場 七夕豪雨以前の伊勢河崎＞
Ise Kawasaki before Tanabata Rain

平安時代に伊勢河崎のまちは「河邊の里」の名であられ、河邊七種神社にその名を残しています。室町時代後期に北条の遺臣である左衛門太夫宗次が、勢田川に沿ってまちづくりを行ったのが伊勢河崎のまちの始まりです。江戸時代には伊勢神宮のお陰参りへ向かう船参宮の上陸地点として、多くの参宮客が訪れたため「伊勢の台所」として発展しました。明治30年は参宮鉄道(現在のJR参宮線)の开通によって船参宮は減少しましたが、鉄道輸送による物資の集積地として繁栄し続けました。しかし、高度成長時代に入ると輸送手段がトラック中心の陸上輸送となり、物資の集積地としての伊勢河崎は徐々に衰退していきました。パネルでは、平安時代からはじまる歴史を持つ伊勢河崎における各時代の様子を紹介しています。

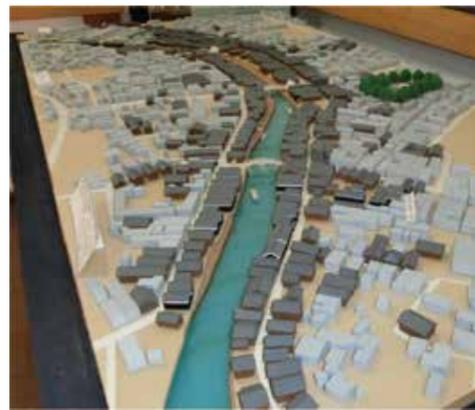
＜第二場 七夕豪雨と勢田川改修＞
Tanabata Rain and Setagawa River Improvement

河川改修計画をめぐり地元では、賛成派と反対派に二分することになり、反対派住民の有志によって立ち退きを伴わない水害対策を求めて反対運動が起こりました。その後、反対運動は新たに町並み保全に重きをおいた運動へと展開していきました。反対運動によってまちの良さを再発見することになった伊勢河崎においては、昭和54年に「伊勢河崎の歴史と文化を育てる会」が設立され、昭和57年には「河崎まちなみ館」を開館しました。伊勢市は平成9年に「伊勢市都市マスタープラン」を発表し、その中で伊勢河崎を歴史文化交流拠点に位置づけました。パネルでは、昭和49年に発生した七夕豪雨をきっかけに始まった伊勢河崎の町並み保存活動を紹介しています。

＜第三場 伊勢河崎商人館開館から現在まで＞
From opening of Ise Kawasaki Syouninkan to the present

伊勢河崎では平成11年に「特定非営利活動法人伊勢河崎まちづくり衆」が設立され、平成14年に「伊勢河崎商人館」を開館し、伊勢河崎のまちづくり活動を継続しています。伊勢市は平成20年に「景観行政団体」になり、平成21年に「伊勢市景観計画」を発表し、伊勢河崎まちづくり衆と河崎地区の景観計画区域内における重点地区指定にむけた調査研究を続けています。伊勢市景観計画では、河崎地区の景観形成の方針として河崎地区の骨格の特徴の活用や歴史的町並みの保全、歴史的町並みとの調和、勢田川との一体性に配慮した町並み形成を図ることとしています。パネルでは、伊勢河崎の町並み保存活動の取組みの経過を紹介しています。

2 伊勢河崎町並み再現模型 HISTORIC KAWASAKI TOWN MODEL



伊勢河崎町並み再現模型は河崎旧環濠地区全体を再現範囲とし、勢田川の河川改修前(昭和39年～昭和46年)の勢田川の様子や連続する切妻屋根の町屋、蔵、世古、環濠等で構成される特徴的な伊勢河崎の町並みを再現しています。河川改修前と現在では右岸の歴史的町並みの消失、左岸の管理道路の新設、橋の架け替え、船着き場の消失、環濠の暗渠化等の変化があります。



勢田川に沿って建ち並ぶ歴史的建築物からなる町並みを再現しています。勢田川は伊勢河崎の生活に欠かせない存在で、かつては物資の運搬等のために船が行き交いました。そのため、伊勢河崎は神宮の門前町の賑わいを支える海運流通の玄関口でした。



本通り沿いの歴史的建築物が構成する伊勢河崎の町並みを再現しています。伊勢河崎の左岸を川に沿ってのはしる本通りは、河崎地区の目抜き通りであり問屋街の歴史を後世へと伝える代表的な歴史的建築物が集中していました。



勢田川の河川改修によって伊勢河崎の歴史的な町並みの消失といった変化が起き、それまでの「水と生活との密接な関係」が失われることになりました。パネルでは、地図や写真等を用いて河川改修前の伊勢河崎の町並みの特徴や河川改修後の伊勢河崎の町並みの変化、伊勢河崎町並み再現模型の見どころを紹介しています。

伊勢河崎まちづくり舞台